

ときには逆転の発想

「ピンチをチャンスに変える」という言葉を耳にすることがしばしばあるかと思います。

一見、分かりやすいフレーズであり、ときには勇気をもらえるような言葉かもしれませんが、現実にはそう簡単に困難を乗り越えていけるものではないと思います。

ここ2年半、毎日のようにコロナに関する情報が聞こえてきます。経済動向の判断材料の一つとして、観光・飲食業界に関する、浮き沈みを繰り返すようなニュースが続いています。しかし、このコロナ過において業績を伸ばしている企業もあります。

例えば、夜の閉店時間を早めざるを得ない状況により、売上が半分以下まで落ち込んでいたラーメン店では、開店時間を早くすることで朝食需要を狙ったところ、話題性も加わり過去最高の売上までに伸ばし、「朝ラー」という言葉も流行しました。そのほか、夏の風物詩でもあるお化け屋敷は、狭いスペースに密集する、お化け役のキャストと参加者が対面する、叫び声を上げるなどの場面が避けられないため、これまで営業自粛を余儀なくされていました。一方でこの事態を一気に解決する「ドライブインお化け屋敷」を考案した企画会社もあり、今ではそのクオリティの高さも重なり、全国の施設から問い合わせが殺到しているといえます。

このように逆転の発想でピンチの局面を打開し、むしろ以前よりも成功している事例が数多く存在しています。

窮地に追い込まれた時こそ、その場から逃げず真剣に向き合う（考える）ことで、より新たな発想が生まれるのかもしれませんが。ありがたいことに現在は、河川、道路、農業、水産、港湾、機械、景観の研究内容と向き合う職に就かせて頂いております。こうしたことも踏まえ、研究に関わる新たな企画や提案、その他、多様な懸案解決のために日々、頭を働かせ、ときには逆転の発想も！と念を押して自分に言い聞かせたいと思います。

（企画室長 永井 智之）

* * * *

表紙右上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。